

学位論文審査の要旨

学位申請者	森 やす子【論文博士】 【人間発達科学専攻 平成16年度生】 (平成25年3月31日 単位修得退学)	要 旨
論文題目	高齢者のインターネット利用と社会関係 -ICT 第一世代に着目して-	本研究は、成人期に至ってインターネット環境に出遭った1950年代以前出生コーホート（ICT第一世代）を対象とする半構造化インタビュー（男女18名）、及びWeb調査（男女835名）のデータにもとづき、高齢期の社会的ネットワークの形成や維持におけるICT利用の実態とその規定要因を探るとともに、その利用状況がかれらの人間関係満足度に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。さらに、東京都区部及び都下の2地域で実施した社会実験により、ICTを活用した高齢者のコミュニケーション支援事業の可能性と効果を探ることも副次的な目的とした。
審査委員	(主査) 教授 藤崎 宏子	本論文の主要な知見及び意義として、次の3点が挙げられる。第1に、調査対象者たちのインターネット利用／非利用に影響する要因を、ジェンダー論及び生涯発達論の視角にもとづき、時代効果、ライフイベント効果、年齢効果の複合的な相互作用の帰結として析出することができた。第2に、調査対象者たちはICTを活用して新たな社会的ネットワークを構築するというより、従来からある関係性を維持・強化するためにICT（とくに電子メール）を利用していた。それゆえかれらのICT利用は、直接の対話や電話などの従来型のコミュニケーションに付加される形で機能しており、社会的ネットワークの各セクター・メンバーにおけるICTの普及度により利用状況が左右されていた。第3に、東京都の2地域で実施した社会実験では、高齢者でも容易に操作できるパーソナルコンピュータを用いたコミュニケーション支援事業（VoViT）の可能性を確認することができた。本システムの普及と孤立化防止などのための活用には、地域住民により担われるサポーターの協力が不可欠であるが、サポーターには機器操作能力以上に情緒的な支援能力が問われることが明らかとなった。 本論文の審査会は、平成 29 年 4 月 27 日、7 月 27 日、10 月 19 日、11 月 30 日の 4 回にわたりおこなわれた。第 1 回審査会では、上記のような本論文の意義は評価されたものの、①論文構成や各章への書き分け方、②基本概念の定義と適切な使用、③社会関係と ICT 利用の因果関係に関する解釈、④結論部分の展開、などの点で不十分なところがあると指摘された。これらのコメントを受けて修正作業を続け、その後 2 回の審査会で順次修正状況を確認し、平成 29 年 11 月 30 日の公開審査会に臨んだ。公開審査会では、論文の概要報告が適切になされ、その後の質疑応答もおおむね満足のいく水準であった。このため、引き続きおこなわれた最終審査会では、全会一致で本論文は博士学位論文として合格水準に達しているとの結論に至った。 以上のことから本審査委員会では、本論文を博士(社会科学)、Ph.D.in Social Sciences の学位を授与するにふさわしいと判断した。
	教授 平岡 公一	
	准教授 斎藤 悦子	
	教授 大森 正博	
	准教授 宮澤 仁	
インターネット 公表	○ 学位論文の全文公表の可否（可・ <input checked="" type="radio"/> 否） ○ 「否」の場合の理由 ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある <input checked="" type="radio"/> 出版刊行されている、もしくは予定されている エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている ※ 本学学位規則第 22 条第 4 項に基づく学位論文全文のインターネット公表について	